



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校 令和8年3月2日

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

3月号

40分午前5時間制と学校裁量の時間による学力向上の取組について

校長 加藤 貴嗣

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
また、授業参観、懇談会、学校説明会に御参加いただきありがとうございました。

現在、国では次期学習指導要領の検討が進められており、教育課程企画特別部会の「論点整理」において、これからの学校教育の大きな方向性が示されています。それは、単に授業時間を増やすことではなく、「子供たちが深く学ぶための時間の使い方を見直すこと」です。

なぜ今、時間割を見直すのでしょうか。目指しているものは、子供たちが「楽しくよく分かる学びをする」学習です。これまでの学習では、「覚える」ことが学ぶことの目的になっていたところもあったのではないのでしょうか。子供たちに必要なのは、「覚えただけの知識」ではなく、「生きて働く『確かな知識』」を習得することです。国の議論でも、「学習内容をつなげて理解する学びになりにくい」「教師も子供も『考える時間』が不足している」といった課題が指摘されています。教育の質を高めるために、子供と教師の双方に「考えるための余白」を生み出すことが必要と考えられています。そのために、ICT活用等により1単位時間を45分から40分程度にし、少し短い授業を集中して行い、生み出された時間（裁量的な時間）を、子供の実態や特性に応じ、資質・能力の育成に特に効果的な学習を行う時間として、「分かるため」に使うという考え方が示されています。

そこで、喜沢小学校では、令和8年度から午前中に40分授業を5時間行い、午後60分授業を学年に応じて週1～3回実施することを計画しています。これは授業を短くすることが目的ではなく、学習リズムを整え集中力を高めること、午後柔軟な学習時間を確保すること、子供一人一人に応じた学びを可能にすることで、「誰一人取り残されない授業」を実現することがただ一つの目的です。

これまでも「分からなかったところをやり直す、少人数で学び直す、よく考える活動をする、学び方を身につける」など、誰一人取り残されない一人一人に応じた学びを行うことができる授業づくりの研究に取り組んできました。これまでの取組をさらに充実させ、「教師が長く教える・みんな同じ進度の学び・教科書を教える」から「子供が深く学ぶ・一人一人に応じた学び・子供に育む資質・能力を中心に授業をつくる」への転換を進めていくため、中央教育審議会教育課程企画特別部会の委員を務める大学の先生や専門家の方に御指導をいただきながら、より一層の研究に取り組んでまいります。

「授業時間を減らして学力は大丈夫？」ということが、保護者の皆様が最も心配される点だと思います。繰り返しになりますが、今回の取組は「時間を減らす改革」ではなく「学びの質を高める改革」です。生まれた時間を活用して、「つまずきの早期支援」「学び直しの時間」「思考を深める対話活動」「自分で学びを調整する力の育成」に取り組む、「分かるまで学べる時間」「理解できる時間」を増やす取組です。そのため学力が下がるのではなく、分かったつもりを減らす「時間を使って理解し定着する学び」を実現します。テストのために覚えることにとどまらず、自分で考えて生きていくための学力の向上を目指します。

私たちは、これまで他の学校で成果をあげた取組を土台に新しいことに挑戦していますが、実験をしているわけではありません。国の方向性を踏まえ、「子供がより理解できる授業」に近づけるための改善です。喜沢小学校は、「全員が同じ速さで進む場所」から、「全員が理解に到達する場所」へ変わることによって教職員一丸となって取り組めます。

今後とも保護者、地域の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

なお、御不明な点や御心配な点、御意見等がございましたら、学校まで御連絡いただきますようお願いいたします。